

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	物理化学		
英文授業科目名	Physical Chemistry		
開講年度	2007年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	安井 正憲		
居室	東6-936		

公開E-Mail	授業関連Webページ
安井	

【主題および達成目標】
<p>化学平衡論（または物質とエネルギー）で学習した内部エネルギー、エンタルピー、エントロピーの概念の延長となる自由エネルギーの概念とそれらの間の関係を学ぶ。また、化学ポテンシャルの概念を導入して二相間の平衡条件を導出する。その結果を利用して沸点上昇・凝固点降下や平衡定数と標準自由エネルギー変化との間の関係を理解する。化学平衡については平衡定数の表わし方やその温度変化の表式などを解説する。電気化学ポテンシャルと電池の章では電解質溶液の性質や酸塩基の概念、電池の組み立ての基礎となる電極反応、電気分解、酸化還元電極、標準電極電位などについて学習する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
化学平衡論（物質とエネルギー）

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
<p>教科書：「化学熱力学」（佐野瑞香著、裳華房、¥3000。「化学平衡論」でも使用） 参考書：「化学熱力学」（渡辺 啓著、サイエンス社、¥1680.） 「基本化学シリーズ6 物理化学」（久下 謙一他著、朝倉書店、¥2835.） 「入門化学熱力学 - 現象から理論へ」（山口 喬著、培風館） 「実例で理解する 入門熱力学」（小宮山 宏著、培風館）</p>

電気通信大学 平成19年度シラバス

自習書：「演習 化学熱力学」(渡辺 啓著、サイエンス社)
物理化学一般については「アトキンス 物理化学(上・下)」
(P. W. Atkins 著、千原 秀昭・中村 亘雄 訳、東京化学同人)

【授業内容とその進め方】

おおむね以下の内容で進める。ほぼ毎回演習問題をミニテストとして実施する。

第1－2週	自由エネルギーと熱力学の基本式
第3－5週	化学ポテンシャルと平衡
第6－7週	相平衡
第8週	中間試験(ここまでの内容について)
第9－10週	化学平衡
第11－13週	電気化学ポテンシャルと電池
第14週	期末試験(講義全体について)

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：中間試験・期末試験、出席状況、ミニテストの結果を用いておおむね以下のように評価する。

$$\text{成績評価} = (\text{出席、演習の評価点} \times 20\%) + (\text{中間試験の評価点} \times 30\%) + (\text{期末試験の評価点} \times 50\%)$$

(b) 評価基準：以下の到達レベルをもって合格とする。いずれにおいても熱力学関数の関係式を用い、関係式の持つ意味としての物質の状態について理解していることが要求される。

- (1) 自由エネルギーを説明でき、熱力学の基本式を導出できること。
- (2) 化学ポテンシャルを説明でき、これを用いて簡単な系(理想溶液など)の平衡を説明できること。
- (3) 1成分系および2成分系の相平衡を説明でき、状態図(相図)を用いて系の状態を説明できること。
- (4) 化学平衡についてギブスの自由エネルギーを用いて説明できること。
- (5) 電気化学ポテンシャルを用いて、電極電位、起電力を説明できること。
- (6) 講義回数の7割以上に出席し、中間および期末試験を受験すること。

【オフィスアワー：授業相談】

月曜日16:30-18:00

その他の時間でもかまわないが、いずれにせよ事前に電子メールなどで連絡しておいてほしい

電気通信大学 平成19年度シラバス

【学生へのメッセージ】

- * 毎回出席し、教科書(上に示してある)を必ず持参すること。
- * 再履修者は、進み方は異なるが他の教科書でもかまわない。
- * 覚えることが学ぶことではない。考え方を理解することが最も大事である。

【その他】